

(差し替え)

平成 12 年 10 月 10 日

国立大学農学系学部長会議 会長殿
国立大学農学系学部長 殿

獣医学教育関係者連絡会議

全国大学獣医学関係代表者協議会	会長	唐木 英明
国公立大学獣医学協議会	会長	徳力 幹彦
私立獣医科大学協議会	会長	中村 経紀
日本学術会議獣医学研究連絡委員会	委員長	高橋 貢
財団法人大学基準協会獣医学教育研究委員会	委員長	光岡 知足
社団法人日本獣医学会	理事長	土井 邦雄
社団法人日本獣医師会	会長	五十嵐幸男

獣医学教育改善に関する要望書

1 獣医学教育の改善が必要な理由

獣医学教育を緊急に改善すべき理由は、概略、以下の3点です。

(1) 海外から侵入する可能性が高い家畜伝染病や人獣共通感染症を予防し、安全な畜産食品の供給を確保すること、動物愛護精神に基く高度獣医療を実施することなど、獣医学に対する新たな社会の要望は飛躍的に増加しています。これに応えるために、獣医師国家試験出題 18 科目^注を教授でき、臨床や公衆衛生の実務教育を行い得る教育体制を確立することが求められています。

(2) 欧米各国における獣医学教育はすでに前項のような社会的要請に応え得る教官数 100 人レベルの教育体制を確立しています。グローバル化の時代に、わが国の獣医学教育だけが一時代前の体制に留まることなく、早急これを改善することが望ましいことは言うまでもありません。

(3) 獣医学教育に投資されている国民の税金が無駄に使われているとの非難の声があります。国立 10 大学に設置された獣医学科の学生入学定員の総数は 335 名、教員の総数は約 290 名、学生/教官比は 1.16 です。この数を医学部の設置基準(入学定員 120 名に対して教官数 140 名、学生/教官比は 0.86)あるいは歯学部^注の設置基準(入学定員 120 名に対して教官数 85 名、学生/教官比は 1.41)と比較すると、学生/教官比では両者の中間に当ります。換言すれば、獣医学教

^注 解剖学、生理、病理学、内科学、外科学、薬理学、微生物学、公衆衛生学、繁殖学、放射線生物学、実験動物学、衛生学、生化学、寄生虫(病)学、伝染病学、毒性学、魚病学、獣医倫理及び関連法規の 18 科目

(差し替え)

育は歯学教育よりずっと優遇され、医学教育に近い数の教官を配置されているのです。にもかかわらず、獣医学教育の現状が極めて貧困である理由はただ一つ、入学定員と教官数を10校という多数に分割したためです。これを3ないし4校に再編すれば、これ以上の税金の投入なしに、入学定員112ないし84名、教官数97ないし73名という、国家試験出題科目を十分に教育でき、実務教育が可能であるとともに国際レベルにも近い教育組織が誕生します。教育効率が課題となる独立行政法人化を目前にして、「小さすぎて非効率的な獣医学教育は税金の無駄使い」という当然の非難に早急に答えることが求められています。

2 獣医学教育関係者の決意

このような状況を踏まえて、平成12年10月6日に開催された国公立大学獣医学協議会および全国大学獣医学関係代表者協議会（旧全国獣医学関係大学代表者協議会）は、獣医学教育の最終的な姿と、これに達する道筋について、以下の点を明らかにしました。

(1) 国立大学の獣医学関係教官は、教育改善の方法としては再編整備しかないことを再確認し、現在の国立大学10獣医学科を3ないし4校に再編すべきであるとの結論に達しました。

(2) 再編の結果、理想とする獣医学部が直ちに完成するよう全力で努力します。しかし、仮にこれが出来ない場合、例えば2校が第1陣として再編するだけでも、現状よりずっと効率的で、優れた教育が可能な体制となります。そこで、必要であれば一歩ずつ前進し、段階的に理想の姿に近づく方法もとるべきであることを確認しました。

3 国立大学農学系学部長会議への要望

このような獣医学関係教官の決意を得て、獣医学教育関係者連絡会議は、わが国の獣医界が一致してこれを支援することを合意しました。しかし、獣医学教育の改善は国立大学農学系学部長の全面的なご理解と御協力なしには達成が不可能です。そこで、このたび開催されます国立大学農学系学部長会議において、「獣医学教育改善」を正式な議題として取り上げていただき、学生と国民のために、その早急な実現に向けてご尽力をいただきますことを伏してお願い申し上げます。

末尾ながら、先生方のますますのご活躍を祈念申し上げます。